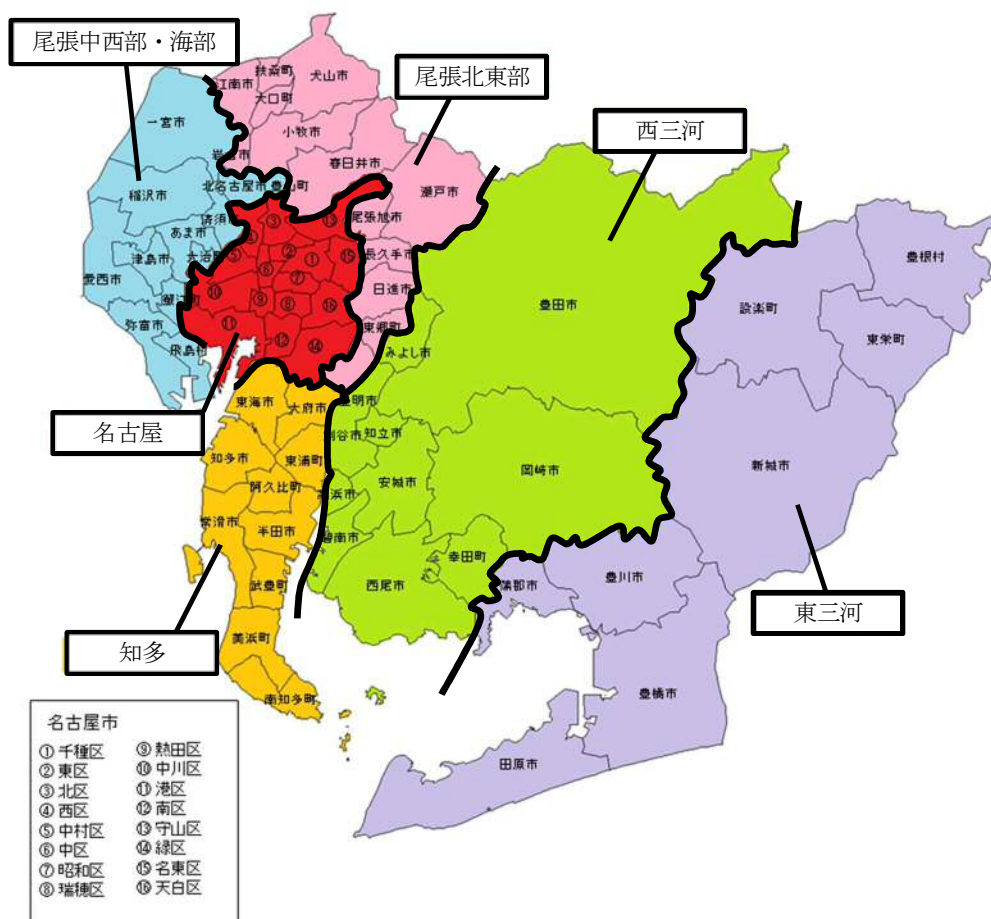


県内各地域の現状と主な取組

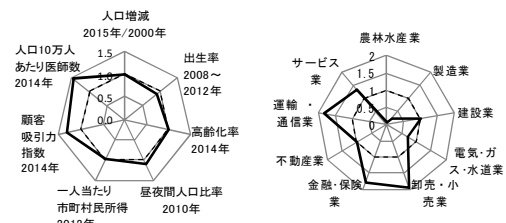
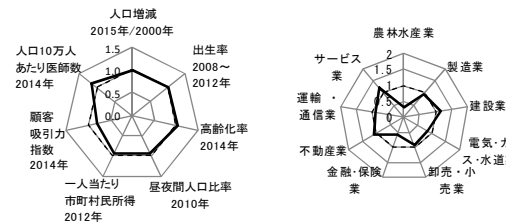
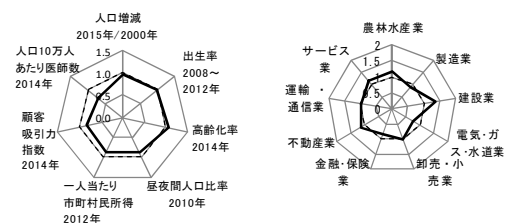
「あいちビジョン2020」では、尾張地域、西三河地域、東三河地域の3地域に分け、地域の将来像や取組の方向を示した。

ビジョンの進行管理の一環として昨年度作成した「あいちレポート2015」では、2015年10月に策定した「愛知県人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略」の区分に倣い、尾張地域を4つに分け、県内6地区ごとに人口や産業の動向、地域間の結びつきなどの地域構造の分析を行った。

地域ブロック		構成市町村
尾張地域	名古屋	名古屋市
	尾張北東部	瀬戸市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町、大口町、扶桑町
	尾張中西部・海部	一宮市、稲沢市、清須市、北名古屋市、豊山町、津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村
	知多	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町
西三河地域		岡崎市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、みよし市、幸田町
東三河地域		豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村



「あいちレポート2015」(2016年3月公表)における地域構造分析結果(概要)

地域	尾張			
	名古屋	尾張北東部	尾張中西部・海部	
<p>地域特性</p> <p>(※1) 全県(点線)を1として、地区の指数を実線で図示 (※2) 右図は、域内総生産構成比全県との比較</p>				
人口	総人口[2015年]	229万6千人(県内シェア:30.7%)	120万1千人(県内シェア:16.0%)	101万3千人(県内シェア:13.5%)
	人口増減率[2010年→2015年]	1.4%の人口増(1,071人の自然増、5,280人の転入超過[2014年])	0.7%の人口増(1,112人の自然増、1,842人の転入超過[2014年])	0.5%の人口増(556人の自然減、511人の転入超過[2014年])
	昼夜間人口比率[2010年]	113.5	94.3	89.6
	就従比[2010年]	1.23	0.87	0.82
産業	通学比[2010年]	1.46	1.09	0.66
	製造品出荷額等[2014年]	県内シェア:8.1% ⇒輸送機械、電気機械、業務用機械など	県内シェア:9.6% ⇒電気機械、金属製品、生産用機械など	県内シェア:6.5% ⇒輸送機械、プラスチック、はん用機械など
	小売販売額[2014年]	県内シェア:40.5% (顧客吸引力指数:1.32)	県内シェア:13.1% (顧客吸引力指数:0.81)	県内シェア:11.6% (顧客吸引力指数:0.85)
医療社	農産物販売額[2010年]	県内シェア:0.7% ⇒施設野菜、稲作、酪農など	県内シェア:3.0% ⇒養鶏、稲作、花き・花木など	県内シェア:10.9% ⇒花き・花木、施設野菜、稲作など
	人口10万人当たり医師数[2014年]	307.8人(県:213.9人)	245.1人(県:213.9人)	147.1人(県:213.9人)
地区の特徴・課題や市町村間の結びつきなど	65歳以上人口10万人当たり高齢者向け施設定員[2014年]	4,870人(県:4,066人)	4,100人(県:4,066人)	3,592人(県:4,066人)
	<p>地区の特徴・課題や市町村間の結びつきなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本県はもとより、中部圏の中核都市として、幅広い面において高い求心力を持つ地区であり、尾張地域の全地区のほか、西三河西部とのつながりが強くなっている。 名駅地区の商業・業務機能の集積や大学の都心回帰、名古屋都心を中心とした放射状の交通網の整備が進み、名古屋都心の影響エリアが拡大しており、2027年度のリニア開業により、名古屋都心の求心力は一層高まっていくことが予想される。 人口の転入超過が続いており、人口は増加しているが、出生率が県平均を下回る中で自然減に転じており、今後、急速に進む高齢化への対応が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い面において、名古屋市とのつながりが強くなっているが、小牧市や春日井市を中心とする北部地域と、長久手市や日進市などの東部地域とは性格が異なる。 北部地域は、工作機械や航空機など、モノづくり産業の集積があり、小牧市に拠点性が見られる。一方で、高蔵寺ニュータウンなど、高度成長期に開発された大規模住宅団地を抱えており、こうした地域では高齢化が急速に進んでいる。 東部地域は、東部丘陵線の整備等に伴い、名古屋・西三河のベッドタウンとして、県内では最も人口が増加している。また、多くの大学が立地し、通学面での人口流入も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 一宮市を中心とする尾張中西部地域は、繊維産業とともに古くから発展してきたが、近年は、名古屋市のベッドタウンとしての性格が強くなっている。 南部の海部地域は、津島市に拠点性が見られるが、通勤・通学・商業などの面で名古屋市とのつながりが強くなっている。 北名古屋市、豊山町、大治町など名古屋市の隣接地域では人口増加が続いているが、地区全体としては、地場産業の発展に伴い流入してきた世代が高齢期を迎えていることなどから、県に先行して高齢化が進んでいる。
各地域における県の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 「名古屋駅周辺まちづくり構想」の具体化に向けた取組 「あいち国際ビジネス支援センター」や「あいち子育て女性再就職サポートセンター」等の設置、「メッセナゴヤ」の開催支援 「あいちトリエンナーレ2016」の開催、「なごやめし」の普及、「マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知」の開催支援 第20回アジア競技大会開催の招致に向けた取組の推進 県庁本庁舎の国の重要文化財指定 名古屋環状2号線の整備、名古屋港の機能強化 	<ul style="list-style-type: none"> 「知の拠点あいち」での産学行政連携による「重点研究プロジェクト」の実施、「シンクロtron光センター」の運営・機能強化 愛知県立大学のグローバル人材育成、愛知県立芸術大学の新デザイン棟整備 「全国都市緑化あいちフェア」の開催など「愛・地球博記念公園」の利活用、「ポップカルチャーイベント」による賑わいの創出 「医療療育総合センター」(仮称)の整備、春日台特別支援学校の過大化解消に向けた新たな特別支援学校の整備 「リニモ沿線地域づくり重点プラン2016-2020」に基づく集約的なまちづくり、国道41号の6車線化、名古屋岡崎線等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> 「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」の推進 国営総合農地防災事業新濃尾地区などの基盤整備、「祖父江ぎんなん」や弥富のきんぎょなど特産品のブランド化 「あいち航空ミュージアム」(2017年度オープン予定)に係る施設設計、「木曾三川ウルトラマラソン」の立ち上げ 日光川河川防災ステーションの整備、日光川水閘門の改築 民間による重症心身障害児者施設の整備(一宮医療療育センター)、いなざわ特別支援学校の開校 名古屋環状2号線、名古屋津島線等の整備、名古屋港の機能強化 	

地域	尾張 知多		西三河	東三河
	尾張 知多		西三河	東三河
地域特性				
(※1) 全県(点線)を1として、地区の指数を実線で図示 (※2) 右図は、域内総生産構成比全県との比較				
人口	総人口[2015年] 62万1千人(県内シェア:8.3%)	人口増減率[2010年→2015年] 1.0%の人口増(604人の自然増、349人の転入超過[2014年])	159万5千人(県内シェア:21.3%)	75万8千人(県内シェア:10.1%)
	昼夜間人口比率[2010年] 93.9	就従比[2010年] 0.91	1.9%の人口増(3,797人の自然増、588人の転出超過[2014年])	1.0%の人口減(1,094人の自然減、1,204人の転出超過[2014年])
	通学比[2010年] 0.72		102.2	97.4
			1.05	0.96
			0.92	0.89
産業	製造品出荷額等[2014年] 県内シェア:11.7% ⇒鉄鋼、輸送機械、化学など	小売業販売額[2014年] 県内シェア:6.6% (顧客吸引力指数:0.79)	県内シェア:53.4% ⇒輸送機械の割合が高い	県内シェア:10.7% ⇒輸送機械、プラスチック、食品など
	農産物販売額[2010年] 県内シェア:12.2% ⇒酪農、養鶏、花き・花木など		県内シェア:19.1% (顧客吸引力指数:0.90)	県内シェア:9.1% (顧客吸引力指数:0.90)
			県内シェア:17.7% ⇒花き・花木、施設野菜、稲作など	県内シェア:55.6% ⇒花き・花木、施設野菜、露地野菜など
医療福祉	人口10万人当たり医師数[2014年] 140.2人(県:213.9人)	65歳以上人口10万人当たり高齢者向け施設定員[2014年] 3,797人(県:4,066人)	146.6人(県:213.9人)	172.2人(県:213.9人)
			3,482人(県:4,066人)	3,568人(県:4,066人)
地区の特徴・課題や市町村間の結びつきなど	<ul style="list-style-type: none"> 半島地域という地理的要因もあり、観光や行政面などで高い一体性を有する地区であるが、名古屋市に近接している北部地域と半島先端の南部地域では性格が異なる。 北部地域は、厚い産業集積があり、名古屋市のベッドタウンとしての側面も強く、人口増加が続いている。 一方、南部地域は、地理的条件、交通条件などの問題から、人口流出が続いており、人口減少・高齢化が進んでいる。 半田市が、特に南部地域にとっての拠点的作用を担っているが、近年、商業機能の集積などにより、中部国際空港周辺地域の広域的な交流拠点性が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車を中心としたわが国屈指のモノづくりの拠点であり、豊田市・岡崎市を中心に産業面における高い一体性を持っている。 強い産業力を背景に、通勤や業務面を中心に、カバーするエリアは地区外に広がっており、特に、長久手市・日進市などや、豊明市・大府市などとのつながりが見られる。一方、刈谷市やみよし市など地区西部は、名古屋市とのつながりも強い。 強い産業力を背景に、男性を中心とした若い世代が流入しており、エリア全体としては、人口増加が続いているが、山間地域や沿岸部等では高齢化や過疎化が進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 豊川流域圏として、社会的・経済的に高い一体性を有する。一方で隣接する西三河とのつながりはそれほど強くない。 バランスの良い産業構造を有しているが、尾張地域や西三河への人口流出が続いており、県内では先行して人口減少・高齢化が進んでいる。特に山間地域は深刻な状況にある。 地区全体で見ると、豊橋市が幅広い面で拠点的作用を担っているが、北設楽郡や新城市などの山間部は、国道151号で結ばれる豊川市とのつながりも強くなっている。 静岡岡遠地域や長野県南信地域とは、歴史的につながりが強く、新東名高速道路や三遠南信自動車道の整備とともに、さらに交流が広がっていくことが見込まれる。 	
各地域における県の主な取組	<ul style="list-style-type: none"> 二本目滑走路(完全24時間化)の整備をはじめとする中部国際空港の機能強化 空港島における大規模展示場の整備 あいち小児保健医療総合センターの小児3次救急施設の供用開始、大府特別支援学校内への新たな特別支援学校の整備 「あいちサービスロボット実用化支援センター」の開設、国家戦略特区における農家レストランの取組支援(常滑市) 日間賀島、篠島、佐久島等の離島の魅力発信、「アイアンマン70.3 セントレア知多半島ジャパン」の開催支援 西知多道路や名古屋半田線等の整備、有料道路コンセッションの実現に向けた取組、衣浦港の機能強化 	<ul style="list-style-type: none"> 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業の推進 「知の拠点あいち」における産学行政連携による「重点研究プロジェクト」の推進、「シンクロトン光センター」の運営・機能強化 国営総合農地防災事業矢作川総合第二期などの基盤整備、「一色産うなぎ」や「西尾の抹茶」など特産品のブランド化 自動車や地場産業、郷土工芸品等を生かした産業観光、徳川家や三河武士ゆかりの史跡などを生かした武将観光の推進、「ラグビーワールドカップ2019」の開催支援 「三河青い鳥医療療育センター」の整備、安城特別支援学校、三好特別支援学校の過大解消に向けた検討 名豊道路の4車線化、衣浦大橋の渋滞対策、名鉄三河線の複線化などによる名古屋駅ー豊田市中心部駅間の所要時間の短縮、衣浦港の機能強化 地域医療の充実、移住・定住の促進、佐久島における現代アートを生かした観光振興 	<ul style="list-style-type: none"> 豊橋技術科学大学や(株)サイエンス・クリエイトなどを核とした産学行政連携による次世代産業の振興、「食農産業クラスター推進協議会」における植物工場や低炭素施設園芸づくりの技術開発・実用化 「ほの国ブランド」の定着、「新城ラリー」や「奥三河パワートレイル」の開催・支援 民間による重症心身障害児者施設(豊川市)の整備、豊橋市立くすのき特別支援学校の開校 地域医療の充実、豊橋特別支援学校の分教室「山嶺教室」の開設、「愛知県交流居住センター」や「三河の山里サポートデスク」などによる移住・定住、誘客の促進 三遠南信自動車道、名豊道路、浜松三ヶ日・豊橋道路等の整備、「いらごさらパーク」の整備、三河港の機能強化 「東三河県庁」と市町村・経済団体等との連携強化、「東三河広域連合」の支援 	